



「長年使った弁当箱を修理して自分の娘用にしたい」という依頼もある」とうれしそうに語る三ツ倉社長。お客様から頂くお礼や感激のメッセージをとて大切にしている。

「大館曲げわっぱ」、新時代へ。

株式会社 大館工芸社

代表取締役 三ツ倉 和雄 氏



経営理念は、「秋田の杉にこだわり大館の曲げわっぱを後世に伝え続ける」と語る三ツ倉社長。

「大館曲げわっぱ」の原材料と言えば「天杉」(天然の秋田杉)である。日本三大美林の一つとしても知られる。しかし、2012年を最後に、国は資源保護の目的から天杉の伐採を禁止した。これからは天杉で曲げわっぱを作ることができない…そんな大きな危機に直面しても、伝統工芸を継承し続けようと奮闘している企業がある。それが株式会社 大館工芸社だ。ゆるぎない決意を支えているのは、ふるさと大館と、先人たちが築き上げてきた有形無形の“財産”への深い愛情と敬意である。



「木で苦勞するよ」

三ツ倉和雄社長は、もともとは食品卸会社を営んでいた。後継者不在で存続が危ぶまれていた同社を、平成9年に出資者を募って買い取り、業務を引き継いだ。「『秋田音頭』を唄う人がいるかぎり、『大館曲げわっぱ』も守り続けなければならない」という思いがあった。

「木で苦勞するよ」——創業者である堺谷哲郎氏の言葉を、今でもしっかりとかみしめている。木、つまり天杉の調達がいずれ難しくなり、原材料が高騰して経営は厳しくなる、という警告だった。「それでも継ぐか？」という堺谷氏の無言の問いは、近い

将来、業界全体に立ちだかる困難を予見し、三ツ倉社長を案じた優しさであった。

堺谷氏が最も憂慮していた「木」の不安を解消するため、三ツ倉社長は今、秋田杉を育てている。人工杉の中にも天杉と同じようにやわらかい材質のものがあることがわかっており、社長自身が所有する山林のほかにさらにもう一つの山林を取得して、原材料を未来に渡って供給できる基盤を整えている。天杉はないが、秋田の杉を使うことにこだわる。「木」の不安を解消し、後世へ橋渡しすることを自分の使命としている。

「活力朝礼」で社内和合

三ツ倉社長が就任してから、社内で新しく取り組んだことがいくつかある。平成16年に倫理法人会に入会して以来実施している「活力朝礼」がその一つ。

同社では朝礼コンクールにも出場しており、大館市のコンクールで3年連続優勝、一昨年の秋田県のコンクールでは最優秀賞に輝くなど、華々しい実績を持つ。コンクールへの挑戦によって、まず若手社員が自信を持ち始め、熟練社員からの信頼も得て、良好な関係が育まれていった。「社員同士が世代を超えて結束できたことは、当社にとって大きな力となった」と、三ツ倉社長。

また、手間ひまのかかる「修理対応」にも積極的に取り組んでいる。修理は新品と同等の工程で行うため採算が合わないが、敢えて断行。長く大切に使い続けられるという安心と信頼感の提供にも努めている。

堺谷社長時代からそのまま継続している事業もある。グッドデザイン賞への応募、年に一回の“大売り出し”などがそうだ。グッドデザイン賞受賞品数はこれまでに28種、毎年3月第三日曜日に実施するセールには、毎回150人を超えるお客さんがつめかける。

「大館の財産」を未来へ

同社の曲げわっぱは今、若い女性や世界で人気となっている。東京の著名なインテリアショップから取扱いのオファーを受けたり、フランス人とのコラボレーションによりヨーロッパで弁当箱がヒットするなど、“本物志向”、“和の文化”の器として注目されている。ユーザーは、20~30代の年齢層が増えている。昭和34年の創業以来、こつこつと誠実なもの作りを続けてきたことが、新たな顧客の獲得につながっている。

三ツ倉社長にはもう一つ、堺谷氏が残した功績で大切にしていることがある。それは、日本全国のデパートに販路を開いてくれたこと。この大きな財産を絶やさないう、同社は“曲げわっぱを全国展開している。

「曲げわっぱという大館の財産は、“売って儲ければそれでいい”という意識では後世に残せない」と三ツ倉社長は言う。そして、同じく“財産”である社員たちが、曲げわっぱを愛し、使命に誇りを持ち、やがて意志を継ぐ後継者として成長してくれることを、夢見ている。



曲げわっぱを作りたいという熱い思いを持って入社した若手スタッフ。担当しているのは「桜皮縫い」。継ぎ目の部分に桜皮を編み込んで留める工程。同社オリジナルの小刀の扱いもすっかり板についている。



弁当箱専門店「Bento&co」のオリジナル商品。オーナーはフランス人。インターネットで国内外へ広く販売しているほか、京都に一号店がある。同社の曲げわっぱは、このほか、「Francfranc(フランフラン)」や、「私の部屋」など、複数の著名な雑貨店で取り扱われている。



本社ショールームの床には、2.5センチの厚さにカットした秋田杉のタイルが敷き詰められている。丸太の芯の部分を利用した。



「曲げ」の工程。秋田杉の柃目部分を薄く剥いで板状にし、沸騰させたお湯に入れ30分煮込んで柔らかくする。取り出したら型に合わせて素早く曲げる。天杉の供給が断られたこれからは、人工杉の中から良い材質を選び、品質を維持することも重要になる。

株式会社 大館工芸社

〒017-0012
秋田県大館市釈迦内字家後29番地15
Tel.0186-48-7700
Fax.0186-48-7711
http://www.magewappa.co.jp

■創業/昭和34年4月
■資本金/3,700万円
■売上高/1億6400万円
■社員/29名(パート含む)
■事業内容/曲げわっぱ・秋田杉加工品製造販売